様式３

研　究　成　果　報　告　書

まるやま　みき
丸　山　美　貴
上越市立春日中学校　養護教諭
平成24年３月修了、教科・領域教育専攻　生活・健康系コース（学校ヘルスケア）

１　はじめに

現代の子供たちの現状として、健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分であり、社会の変化に伴う新たな健康課題に対応した教育が必要であるとの指摘がある。また、日本人の死亡原因として最も多いがんについては、がんという疾病そのものについて正しく理解し適切な態度や行動をとることが求められ、新学習指導要領の内容の取り扱いに明記された。

そこで、がんという現代社会の健康問題を自分事として捉え、よりよい判断や行動ができるよう、実践や意識調査を試みた。

２　実践

平成29年度文部科学省委託「がん教育総合支援事業」における授業実践と質問調査を基に、同じ質問紙を用いてがんに対する理解状況を把握した。

（１）授業の学習内容（がん教育に関連する内容）

①生活習慣病の予防

②日本人の死亡原因、がんという病気について（原因、治療・回復、予防等）

②については、がん教育推進のための補助教材のうち、スライド教材モジュール１「がんという病気」、２「日本のがんの現状」、４「がんの予防」から抜粋して視覚教材を作成した。

（平成29年度は上記に加えて「自分ががんになったら知りたいか、知りたくないか」、「家族ががんになったら伝えるか伝えないか」の問いについて考え、意見交換している）

（２）保健体育授業と技術家庭科家庭分野（食）の学習を１学期に実施した。

（３）事後アンケートは３学期に実施した。

３　結果と考察

表１の結果から、学習後はがんに関する学習の重要性や生活習慣改善の必要性についての意識が高いと言える。令和２年度は授業を１学期に行った（アンケートは３月に実施）が、日頃から健康な生活を送ろうという意識が継続している生徒が多い、もしくは生活習慣が病気の要因となると理解している生徒が多いと考えられる。

しかし、がんは日本人の死亡原因の１位であること、がんに罹患する原因は生活習慣だけではないこと、日本人の２人に１人はがんになる可能性があることを学習したが、平成29年度、令和２年度とも３割生徒が自分はがんにならないと思っている。

そこで、がんという病気の理解と意識についての関連をみた。表２の結果からも分かるように「がんは誰もがかかる病気である」と理解していない生徒は、「自分はがんにならないと思う」と答えている。

表１学習後のアンケート結果

	がんの学習は健康な生活を送るために役に立つ	自分はがんにならないと思う（そう思わない、どちらかと言えばそう思わないと回答）	将来タバコは吸わないでいようと思う	日頃からバランスの良い食事や適度な運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う
H29（３学年）	100%	73.9%	97.1%	98.5%
R２（２学年）	98.1%	70.0%	97.5%	98.7%

この質問に関しては、平成29年度の事前アンケートにおいても「がんは誰もがかかる可能性のある病気である」の正答が97%に対して、39%の生徒が「自分はがんにならないと思う」と答えている。このことから、生徒はがんを身近な病気として捉えていないことが分かる。

表２「がんは誰もがかかる病気である」の正答と「自分はがんにならないと思う」という意識との関連(n157)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
正答	9	34	47	63
誤答	2	2	0	0

一方で、がんの学習を重要だと感じている生徒は、日頃からバランスの良い食事や適度に運動を行うなど、健康な体づくりに取り組むことについても意識が高い。健康な体づくり、規則正しい生活習慣を送ることによって病気を予防することができると理解していると考える。

表３　「がんの学習は重要だ」と「日頃から健康な体づくりに取り組もうと思う」との関連(n157)

重要性＼健康な体づくり	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
そう思う	94	37	1	0
どちらかと言えばそう思う	9	13	0	0
どちらかと言えばそう思わない	1	1	1	0
そう思わない	0	0	0	0

本授業で、がんの原因は主に「細菌・ウィルス」、「生活習慣」、「遺伝的原因」であると学習した生徒に、タバコを吸わないこと、バランスよく食事をすること、適度な運動をすること等（生活の仕方）で予防できるがんもあるという問いに対する解答と、将来たばこは吸わないでいようと思うという意思決定についての関連をみた。

結果、正答と誤答とで差はなく、現時点では多くの生徒が「将来、タバコは吸わないでいよう」と思っていることが分かる。たばこが肺がんの発生に関係していると理解していると考える。

表４「生活の仕方で予防できるがんもある」の正答と「将来、たばこは吸わないでいようと思う」という意識との関連(n157)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
正答	133	13	4	0
誤答	7	0	0	0

他教科との関連を感じているか調査したところ、３分の２の生徒が、がん教育の内容について、家庭科の学習と保健教育との関連を実感している。関連について肯定的に回答している割合は98.8%だった。

表５　家庭科の学習が保健の学習に活かされている(n157)

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない
	66.7%	32.1%	1.3%	０%

４　課題

生徒は、生活習慣を改善することで病気を予防することができると理解している。

しかし、望ましい生活習慣に対しての重要性は感じているが行動につながらない、または行動が継続しない現状がある。引き続き、その背景に何があるのか、生徒の実態を把握し実践につなげていく必要がある。

また、教科等横断的の視点としては、学習時期の配慮のみにとどまり、学習内容の検討まですることができなかった。学習内容の検討は、各教科担当（例えば家庭科や理科）と行う必要があり、検討する時間の確保も課題であると考える。

【引用・参考文献】

・「生きる力」を育む中学校保健教育の手引き　（令和２年３月）文部科学省
・学校におけるがん教育の手引き　（平成31年２月）新潟県教育員会
・中学校学習指導要領　（平成29年告示）文部科学省
・中学校学習指導要領　解説　保健体育編　（平成29年告示）文部科学省